特　集　未来展望（随想）

新しき明日が永遠に来るように

――農業の持つ力を信じて――

We Shall Have Hopeful Tomorrow Forever
―― Agriculture May Assure It ――

伊　澤　敏　彦*
Toshihiko　Izawa

平成5年の多雨冷夏による凶作と平成6年の好天による豊作と，隣合った2年でこれほど際立った違いは歴史上まれにしか見られないことでしょう．今年の豊作に浮かれて，1年前のことでありながらもう米不足のことは「喉もと過ぎれば熱さを忘れる」かのように，あとはどうやって国内農業を安楽死させようかというような議論がなされています．効率の悪いわが国の農業は不要だ，いつまでも過保護にしておいては税金の無駄使いだ，との論調です．資源・エネルギーに関心を持たれる方々はこのような論調にくみせず，農業に理解を示して下さいますが，ここでは「なぜ農業なのか」「なぜ国内で農業なのか」について，将来に対する責任の観点から述べさせて下さい．

資源・エネルギーの活用は私たちの生活を便利で豊かなものにしてくれました．「それに比べて農業は」と批判される方も多いし，その延長上に「だからわが国で農業など不要だ」と極論を吐く人さえ出てきてしまったようです．でもちょっと待って下さい．資源・エネルギーの活用は一方では環境に修復不能となるダメージを与えようとしているではないですか．現在の便利さ，目先の快適さだけで評価していては，ある日「明日が来なくなってしまう」恐れがあると指摘されています．考えなければならないのは，次の世代に地球を引き継ぐときに，子孫が平穏に暮らせる環境は保たれていますよ，と言い切れることでしょう．そこで直ちに，だからわが国の農業は現在のまま続けられなければならない，と我田引水的に断定はしませんし，今までのわが国農業のあり方がその期待に完全に応え得るものとして営まれてきたとも思いません．

しかし，春に播いた一粒の籾が秋の稲穂となって稔るのを見るにつけ，有機廃棄物が堆肥化によって土作り資材に変換されるのを見るにつけ，農業の持つ生産機能，浄化機能を私たちの生活の周辺に置く貴重さを実感します．田植えに使われる苗は，現在では機械にかけられるマットを形作るよう箱に詰められた土に種籾が播かれます．一斉に発芽して，もやし状のものが次第に緑の瑞々しさを増して行く様は感動的です．これらの苗が田に移植され，最初は水の中に没してしまいそうな姿が，やがて緑の田となり風を描きます．暑さを過ぎて秋が来れば黄金色の稔りが得られます．春から秋までの4カ月余り繰り広げられる自然の中の生産過程は日々感動に満ちています．一方，家庭で生じた生ゴミや家畜の排泄物などを適切に管理すると，堆肥化が始まり，温度が上がり特有のにおいを出しながら変化して行きます．活躍しているのは目に見えない微生物ですが，汚いものが次第に土に似た物質に変わっていく姿も，また私たちを不思議な感動に誘います．ここで生産された堆肥を与えると野菜の育ちが一段と違う，という体験を持てば一層感動は深められます．このように農業は生産と浄化とが連続して行われ得る特徴を持っています．

私たちは，身の回りの生産物を消費するプロセスだけに目が行ってしまい，廃棄物を変換し処理から利用へとつなぐプロセスは，自治体がやってくれるサービスに全面的に頼っていて気がつかないで済ませてしまっています．ところがこの廃棄物の処理利用のプロセスは実に大切なことと思います．自治体の多くが収集したゴミの最終処分に頭を痛めていると報じられています．ところが農業には，生産とともにいつも廃棄物の再生，利用の流れができています．このような動脈と静脈がバランスのとれた状態に準備できるところに，農業の特徴があると言えますが，本来は工業にあっても製品の利用までで留まらずに，利用を終えた後の処理が技術として確立されていなければならないはずです．そこまできちんとして，農業との効率比較，生産

＊農林水産省 東北農業試験場 企画連絡室
総合研究第1チーム長
〒020-01 岩手県盛岡市下厨川字赤平4

性比較をされるのでしたら，良いのですが．と言いながら，最近の機械化された農業は，機械の動力源に化石エネルギーを大量に使いますし，施設栽培は熱源となる化石エネルギーなしには考えられなくなっています．このような技術の持つ歪は是正されなければなりません．農業によって生産できるエネルギー源でこれらを賄えるようにすることが，長期的には必要と考えられます．そして，その可能性はあると言えます．農業を再生可能な資源を生産するシステムとしてとらえ，積極的な技術開発にあたれば良い答が期待できます．化石エネルギーを利用するのは，親の遺産を食いつぶしていくようなものであるのに対し，農業によって生産されたエネルギー源を利用するのは，自分の代で汗水流して働くようなものです．両者を単純に効率や経済性で比較することや，その比較に基づいて一方のみに片寄った頼り方をするのは過ちではないでしょうか．少なくとも，次の世代，その次の世代と，永続的に明日を迎え得る技術はどれか，との視点に立てば，現在のような農業不要論には至らないと思います．

海外技術協力に携わった経験からも，わが国の農業を継続すべき必要性を感じました．南方の熱い地域でとれる果実類は，その地域特有の気候の恵みですから，これらを輸入して生活の豊かさを感じることは不都合とは思いません．しかし，国内でも生産できる穀類の価格差のみなもとが，生産にあたる農家の生活格差に基づいていると思わされると，この価格差を当然視する考えを気安く受け容れることはできません．発展途上国の農家が水道や自動車の恩恵ある生活をするようになったとき，果たして現在のような価格差が残るでしょうか．また，彼らの生活にとっても大切な穀類を，外貨獲得のために輸出することは大きな歪を生み出すことにならないでしょうか．かつてわが国で絹製品の輸出の影に女工哀史に象徴される生活があったことを思えば，農産物を買ってやるというような傲慢な言い方はとてもできないはずです．短期的な考えに立ち価格差に目をつけて，あそこのものをここへ持って来れば儲かる，ここでは高くつくから生産はやめてしまう，という選択をしてしまって良いものでしょうか．同じ地球の上に同時代を過ごす仲間達と，限られた資源・環境を分かちあってお互いの生存を認め合うこと，無用な争いをすること無く永続的な生き方とすること，等の条件は議論の余地が無いほど明白だと思うのです．冷戦構造が消滅した割りにキナ臭さの消えない現在，そんな甘いことを言っていたら生きては行けないよ，と指摘する人が居るかも知れません．そのような背景だからこそ，逆に甘いことを言い切れる技術の展望を示す必要が今求められているのだと思います．キナ臭さが殺し合いから，極限である生存不可能な地球環境の招来になってしまうことは，絶対に避けなければなりません．

話が大きくなり過ぎたようですが，再生産可能な資源を手に入れる手段としての農業を見直し，その上で地球全体の技術の進歩のあり方を探して，資源ナショナリズム・食料ナショナリズムが過剰に前面に出て来るのを回避する知恵をこれからは発揮しなければならないでしょう．そのことによって一時的に豊かさを低下させることになったとしても，本当に心豊かに生きていく道が見えてくるものと信じます．

資源・環境・エネルギーの問題を取り上げると，将来への道がずうっと続いていると言えないような印象が持たれ，その結果それなら刹那的に生きる道を選ぶ，という風潮が感じられもします．次の世代への責任を持つためにも，考え方を改め，改められた考えに基づいて「なぜ農業か」をぜひ皆さんも心にとめ考えて欲しいものです．

われわれの子孫がいつまでも希望に満ちた新しい明日を迎え続けられるように．